

木材ジャーナル 名古屋・せぶ

令和8年7月号 No.230

名古屋木材組合
名古屋港木材産業協同組合

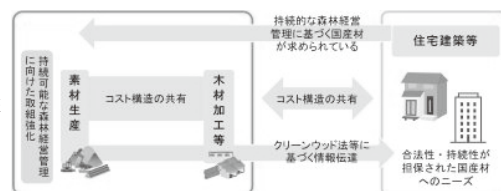
森林・林業基本計画 ～百年つづく「森の国・木の街」へ

森林・林業基本計画(林野庁)は、森林・林業基本法に基づき、我が国の森林・林業施策の基本的な方針等を定めるもので、森林・林業をめぐる情勢の変化等を踏まえ、おおむね5年ごとに変更することとされています。

令和8年6月5日(金曜日)に新たな森林・林業基本計画が閣議決定されました。新たな基本計画では、森林・林業・木材産業関係者が将来に希望を持って挑戦できる構造を確立し、先人が築いた我が国の森林資源の循環利用と多様で健全な森林づくりを着実に進めることにより、森林・林業・木材産業の好循環を生み出し、百年つづく「森の国・木の街」の実現を目指すこととし、以下の施策が取り組まれます。

◎ 国産材の幅広い需要の創出とこれに向けた正の連鎖の構築

- ・ 国産材の利用拡大と幅広い需要の創出
SHK制度¹⁾や建築物のLCCO2²⁾の評価等を活用した国産材の利用効果の見える化。
非住宅・中高層建築物の木造化など都市の木造化、大径材や広葉樹材を活用した内装材等の開発・普及。
- ・ 需要に応じた国産材の供給力強化
木材加工流通施設の規模拡大や、工場間連携、ストック機能の強化。その際、JAS製材設備や大径材対応設備等を戦略的に整備。
地場の中小工場等において高付加価値製品の持続的供給体制を構築。
- ・ スマート林業技術の実装等による持続的な林業の確立
林業の労働安全確保と生産性向上に向けた遠隔操作・自動運転機械等の開発・実装。キャリアに応じた昇給の実現や関係者の意識改革の徹底等により、林業従事者の所得向上と労働環境の改善を促進。
- ・ 森業³⁾等の推進による山村地域の自立的かつ持続的発展
従来から進めている森林サービス産業を中心とした森林の総合的な活用に加え、森林由来J-クレジットの活用等を通じて、人と森林との関係を深化させ、山村地域の所得の向上や豊かな森林づくりにつなげる森業を推進。
- ・ ゴーニングと集積・集約化の加速
ゴーニング等を実施し、林業適地における再造林の確保。その際、路網の重点的整備、リモートセンシングやAIを活用した境界明確化、改正森林経営管理法の最大限の活用等による森林の集積・集約化を推進。
- ・ 強靱な国産材サプライチェーンの構築
川上・川中・川下の関係者間において再造林コストや森林・木材の持続性に関する情報共有・相互理解、合理的な価格形成を図る、国産材主導のサプライチェーンを構築。



1) SHK制度とは温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度のこと

2) LCCO2とは「ライフサイクルCO2」の略で、製品製造の際に発生するCO2を製品の寿命1年あたりの排出量を算出し評価する手法のこと

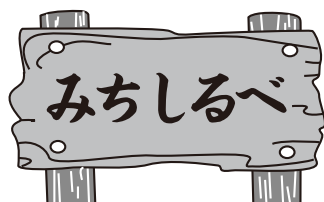
3) 森業(もりぎょう)とは「地方みらい共創戦略」(令和7年5月28日農林水産省公表)において「森業」の推進が位置づけられた。文化的サービスを始めとする森林の多様な生態系サービスの提供・活用により、人と森林の関係を深めるとともに、林業と相まって森林所有者に利益を生み出し、豊かな森林づくりにつなげる取組のこと

◎ 国民の安全・安心を根底から支える多様で健全な森林づくり

国土強靱化に向けた治山対策・森林整備の加速、林野火災対策として延焼しにくい多様な林相への誘導や広報等の強化、クマ被害対策パッケージに基づく奥山の針広混交林化や里山林整備などの生息環境の保全・整備、花粉の少ない森林への転換を推進。

(林野庁 森林・林業基本計画抜粋)

“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを



車を捨てて助かった命、渋滞で失われた命 命を守るためには

FNN プライムオンラインより

名古屋港木材産業協同組合
理事長 服 部 伸 一

「大地震が起こったら西部工業団地内の安全な場所に避難する」ということは1つの価値ある選択肢であると考えます。震災経験者の声を紹介します。

東日本大震災が発生したあの日、沿岸部の至るところで発生したのが、避難を急ぐ車による渋滞だった。高台を目指す車列が身動きを封じられ、多くの命が津波に呑み込まれた。

津波避難は「原則徒歩」とされているが、震災後に行われた調査でも、依然として約7割の人が車での避難を選択している現実がある。命を守るために、私たちは**今、どのような避難行動を選択すべきなのか・・・**

震災当日、石巻市で激しい渋滞に巻き込まれた草島真人さんは、変わり果てた街の光景を鮮明に覚えている。

【草島真人さん】

信号機は全部消えて真っすぐ立っていないし、道路は波打っている状態。

揺れは車を運転しているときに襲ってきた。

避難所で使うものを取りに、海から80mほどの自宅に戻った草島さんの目に飛び込んできたのは、堤防を遥かに超える高さで迫り来る津波だった。

高台へ向かったが、渋滞で車は動かない。草島さんは「車を捨てる」判断をし、走って逃げた。直後、背後では多くの車が濁流に呑み込まれていった。

【東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔准教授】

多くの地域で防潮堤が整備されたり、道路が高台化されたりしたこともあって、徒歩で避難できない状況にいる方はかなり少なくなっている。想定されている以上の人が車で避難をすることは、渋滞発生の可能性を高める。それによって津波にさらわれてしまう人が増えてしまうかもしれないことを踏まえ、地域の中でどのような避難行動をするのか、改めて考えていただきたい。

「自分だけが逃げる」のではなく「共に助かる」ために。

車で避難するという選択肢が、自分や誰かを危険にさらすことにならないかを考える。

日常の交流と、冷静な状況判断が、より多くの命を救うことにつながる。

◆ 合縁木縁 ◆

「潰れない会社」

人が来る会社は潰れない。

尊敬する経営者にそう言われて衝撃が走った。シンプルで、それでいてとても強力な言葉だと思う。人が来るというのは、単に人の出入りの多い少ないということではない。業務的なやりとりだけでなく、世間話をしたり一緒にお茶を飲んだりといった、人と人との関わりがある状態を指しているのだと私は解釈している。

思えば、昔から私の会社には毎日沢山の方が来る。製材のお客様はもちろん、建築士の方、テーブルを探している夫婦、材料を探して飛び込みでやってくる外国籍の方など目的は様々です。

中には、弁当片手に「昼飯を一緒に食べに来た」という方までいた。もうその方は亡くなってしまったが今でもはっきりと憶えている。

こんなにも多くの人が訪れてくれるのは「とにかく挨拶だ」と口酸っぱく言っていた祖父、どんな相談でもまず話を聞く姿勢を貫く父と毎日気持ちよく挨拶をしてくれる従業員のお陰だと心から思う。こうした文化は失くすことは容易だが、つくり直すことは極めて難しい。

よく「後継者が会社を潰す」と言われているのは、会社の支柱となるものを履き違えた時に起こるのだろう。

私自身はあまり愛嬌のある性格ではない。

しかし、一言目に「調子はどうですか？」と冗談を交えながら笑顔で言えるよう、今日も背筋を伸ばして出社している。

当面の目標は、弁当を食べに来たという方が再び現れることです。

オフィスの必要性すら問われる時代になりつつありますが、私は「人が来る会社」を愚直に目指していきたいと思います。

今回は、江口木材株式会社 江口 真永氏にお願いします。

◆ 自遊で異見番 ◆

「レジリエンス」

皆さんは、「レジリエンス」という言葉をご存じでしょうか。

レジリエンス (Resilience) とは、物理学で「外力による歪みを跳ね返す力」や「復元力」を意味しますが、ビジネスシーンにおけるレジリエンスとは、折れない心、逆境力のことであり、「鋼のような強さ」ではなく、「ヤナギのようなしなやかで決して折れない強さ」、「失敗や挫折をしても、その経験を糧に回復して成長する回復力」を意味します。

近年、地政学的な緊張の長期化、世界的なインフレと金利の変動、そして激甚化する気候災害など、世界情勢は予測不可能な「不確実性」が常態化しています。このような激動の時代において、ただ危機や逆境に耐え忍ぶだけでなく、変化に柔軟に適応し、ショックを成長の契機へと変える「レジリエンス (強靱性・復元力)」の強化は、最優先課題といえます。

一方で企業に限らず、私たちの生活においても、情報化社会の進展により日々雑多で大量の情報に囲まれ、仕事のプレッシャーや人間関係のストレス・トラブルに見舞われ、想定外の出来事に遭遇することがあります。又、企業が成長し社会に貢献するためには、そこで働く社員の人たちが明るく元気で、目標に向け能力を発揮できることが不可欠です。様々な要因がありますが大切な社員が不幸になる事態は避けなければなりません。それを防ぐためには個人においても、折れないしなやかなレジリエンスを鍛えていくことが大切であり、企業内でも逆境に負けない失敗や挫折を糧にできるレジリエンスの高い人材を育成することが重要です。

最後にこのレジリエンスという言葉は書籍やWebなどで様々な情報がありますが、その中で、私調べの「レジリエンスを高める3つの習慣」を紹介して終わりたいと思います。皆さんのご参考になれば幸いです。

《レジリエンスを高める3つの習慣》

- ①感情をコントロールする：
ネガティブな感情の連鎖を「その日のうち」に断ち切る
- ②ポジティブな姿勢を保つ：
否定的な思いや感情を、意識的に肯定的な「言葉」に置き換える
- ③自己効力感を持つ：
卑屈にならずに肯定的にとらえる。自らの手で未来を変える、思った結果を出せると考える

熱中症対策説明会開催しました

名古屋港木材産業協同組合の産業安全衛生委員会では、夏季における熱中症災害の防止を目的として、熱中症対策説明会を令和8年5月29日に名古屋港木材会館 会議室にて22名の参加で開催しました。冒頭、成瀬章司産業安全衛生委員長（材惣木材株）より熱中症予防の重要性和安全な職場づくりについて挨拶がありました。

説明会では津島労働基準監督署の安全衛生課長を招き、熱中症発生要因や予防策、発症時の応急処置について解説をいただき、参加者が職場で実践できる対策について理解を深め、安全で健康的な職場環境づくりの重要性を再認識する機会となりました。



定員 30名
名古屋港木材産業協同組合 組合員の皆さまへ
参加費 無料
中小企業のための
BCP(連携ジグョケイ)セミナー

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、地域のインフラや事業所・工場等の被災により、地域経済に大きな影響がありました。
愛知県でも将来南海トラフ巨大地震の発生により甚大な被害が想定されています。各企業の皆様が中小企業向けBCP(連携ジグョケイ)を策定し、予め災害に備えておけば、人的・物的被害を減少させ、事業活動の早期復旧・再開をすることで、取引先やお客様からの信用力向上に繋がります。
本セミナーでは、能登半島地震の事例、自然災害リスクやBCPの基本、中小規模の実施する中小企業向けBCP(連携ジグョケイ)の作りについて解説します。

日時 2025年 7月 9日 (木) 14:00～15:30 (受付開始 13:30)

場所 名古屋港木材会館 会議室
(住所: 愛知県海部郡飛鳥村木場一丁目74番地)

プログラム

『災害が「今」起こったら、あなたの大切な事業は継続できますか?』
～中小企業向けBCP(連携ジグョケイ)に取り組みしよう～

▶ 14:00～15:30

【講師】独立行政法人中小企業基盤整備機構 中部本部
中小企業アドバイザー(災害対策支援) 仲保 吉正氏

日本政策金融公庫に勤務し、全国の中小企業支援に携わった経験を活かし、2024年度後援本部認定経営コンサルタント
「災害に負けない事業」を目指し、事業者に寄り添い、事業継続するための対策、取組みを一緒に考えるから、事業継続力強化計画(策定のサポート、アドバイスを行う)もサポート



申込方法 お電話・FAXにてお送りください。

※申込時に記入された住所が、申込書裏面に記入いただいた同一住所と異なる場合はお断りいたします。

申込期限 2025年7月5日(日)

※定員になり次第締め切らせていただきます

お申し込みと申込書 名古屋港木材産業協同組合 総務・経営
TEL: 0567-57-2017 FAX: 0567-57-2018

BCP(連携ジグョケイ) セミナー申込書

企業名	
参加者名	
連絡先	

☆☆☆ 西部臨海安全ニュース ☆☆☆

注意! 窓開けっ放しにしていないですか?

これからの暑い時期、どうしても換気や通気のために窓を開けっぱなしにしたり、網戸だけにしてしまうことが増えてくると思いますが、ドロボウはその窓を狙って侵入し、現金や貴重品等を盗んでいきます。

対策として就寝時や外出時には、窓を閉め、施錠を必ずしましょう。

また2階や高い場所の窓であっても、室外機や雨樋を足場に侵入されることがあるので、必ずどの階の窓でも施錠しましょう。

【窓には補助錠をつけて防犯対策!】【防犯フィルムの貼付や防犯砂利を敷き詰めるのも効果的です】

蟹江警察署 生活安全課 生活安全係 TEL.0567-95-0110

◆ 広告コーナー

人と未来のために高い技術を誇るプレカットシステムのトップメーカー

MIYAGAWA

宮川工機株式会社

〒441-8019 豊橋市花田町字中ノ坪53

TEL 0532-31-1251 FAX 0532-34-1956

URL <https://www.miyagawakoki.co.jp/>



発行 名古屋木材組合

発行者 西垣 洋一

〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10

TEL <052> 331-9386

FAX <052> 322-3376

【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合

発行者 服部 伸一

〒490-1444 海部郡飛鳥村木場1-74

TEL <0567> 57-2017

FAX <0567> 57-2018

【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会